

# 彼らの原発

誰もが、本音と建前の中で、  
生きている。

送電鉄塔、民宿や旅館、そして立派な道路。原発がある町の日常が淡々と映し出されていく。やがて、住民たちの笑顔の底に不安や恐怖が貼りついているように思えてきて、鳥肌が立った。

—— 川上武志（元原発労働者／『放射能を喰らって生きる』著者）

福井県大飯郡おおい町

あの日以来この町は、  
好奇と無関心に  
翻弄されていた――

原発とは何か。それは視点によって様々だ。決して一つではない。でもそれが一つであるとの思い込みから争いが起きる。この映画は地域の様々な視点を示してくれる。ただし本筋はこれを撮る川口勉の視点だ。そして川口が示したその視点は、僕にとつてとても大切な視点だった。

森達也 映画監督 作家

曖昧で小さな声。マスコミ、が編集で切り落とす声だ。でもその声は、例えば反対の立場の人間の気持ちも想像してみる、そういう風に揺れることもある。本当はそこにしか未来がないことを、本作は静かに教えてくれる。

寺尾紗穂 音楽家・文筆家

登場するおおい町に住み、暮らしを営む人びと、ひとりひとりに何故か見おぼえがある。そう、これは「彼ら」ではなく、まぎれもない『ぼくらのXX』についての、痛切なドキュメンタリーなのだ。

佐藤信 劇作演出家



## 原発と私たちをつなぐのは、 送電線と想像力である。

2006年に大飯郡大飯町と遠敷郡名田庄村が合併され「おおい町」となった。人口8,700人、海と山に囲まれた小さな町。

住民はこの地に建設された大飯原発と折り合いをつけながら生活してきた。しかし、2011年に起きた福島第一原発事故は、その暮らしに大きな影を落とす。2012年、世論を二分するなか大飯原発の再稼働が伝えられると、おおい町は日本全国から注目を浴びる。押し寄せるマスコミ、誹謗中傷の電話、そして、町を揺るがす町長選が行われることとなる。

本作は、原発問題の渦中におかれた町を訪ね、そこに暮らす人々との対話を試みた。変わってしまった暮らしと、変わらない風習。

住民たちが静かに語る言葉、その姿から、いまこの国の抱える問題が浮かび上がってくる。

原発のある街に住む人たちがいるわけではない。原発のある国に住む人たちがいるだけだ。もしも彼らの生活や人間性を批判する人がいたら、それは、そのまま私もふくめてこの国に住む全員に向けられているのだ。

「彼らの原発」は「僕らの原発」なのである。

三上寛 シンガーソングライター

共同体の中に入ってリアリティに迫るといふ点で、ジョー・サッコの『パレスチナ』を連想した。

冷静な議論のためには欠かせない視点の作品だと思ふ。

小崎哲哉 『REALKYOTO』発行人兼編集長

# 彼らの原発

製作・監督・撮影・編集／川口勉 音響構成／渡辺丈彦 スタジオ技術／東凌太郎 資料提供／福井新聞社 北陸政界  
歌／「おもん花」三上寛(作詞・作曲／三上寛) レコーディングミックス／島田正明(アケタス・ディスク) レコーディング協力／アケタの店  
2017年／日本／119分  
宣伝／contrail デザイン／藤本三千代 配給／「彼らの原発」上映委員会  
www.kare-gen.com @Kare\_Gen @karanogenpatsu

11/3(土)より未来へつなぐロードショー!

【当日料金】一般1,500円／会員1,200円／大専・シニア1,100円／高校生以下800円

※詳しくは劇場にお問合せ下さい。

横浜 R16長者町5丁目交差点沿  
**シネマリン**  
045-341-3180  
www.cinemarine.co.jp

